



いびき

◇『【本部連絡会】～講話：浅井会長～』 ◇『トラックフェスタ TOKYO の裏方として』

副本部長・本部連絡委員長 宮本 隆
〔多摩支部 宮本運送株〕

副本部長・広報委員長 中村 克敏
〔城東支部 株中彦運送〕

本部連絡委員会の宮本です。

去る9月24日、本部連絡会において、浅井隆会長からこれからの時代を担うメンバーへの示唆をいただきましたので、その内容を要約してご紹介いたします。



働き方改革に伴う時間外労働削減とそれに伴う賃金問題については、各社の業務内容等が異なることから、各社で試行錯誤を重ね法律に則した問題を解決していただきたい。



- 『モノを運ぶ』ということが無くなることはないの、ビジネスモデルを立て、お客様にアピールをして次の時代を築いていくのが本来のもの。我々業界は現場からの発想無しにはお客様の本当のニーズを掴めない。第一線の現場の方が最新の市場ニーズを掴んでおり、今後の市場のあり方についても正しく的確に把握しているので、おもいきって進めてほしい。
- 我々の業界は、各社でお客様に形の無いサービスの提供をしているが、本来は金額では無く、サービスの質で競争をしたいと思っている。社会保険等に入らず安全への配慮が欠けているところとの競争などは論外で、秩序あるレベルでサービスの競争をする業界であってほしい。
- お客様の物流担当者から「標準的運賃はどうなったのか」と聞かれるが「まだ」と答えると、決まれば社内決裁にかけて速やかに対応したいという。ここまで来ているので、早く作っていただきたいと思っている。
- 会長就任後、各支部を訪問したが、事務局はしっかりとした方を採用していた。会員の方と第一線で接するのは支部事務局職員で、各支部の会員への情報伝達は一定の水準にある。今後、情報伝達についてもパソコン等を駆使し、本部から支部へよりスピーディーに伝わる仕組みを考えるとともに、本部の会員、支部へのフォローをする職員を増やしていきたい。
- トラックフェスタは、皆様の協力を得て無事開催できた。トラックの印象を良くしていきたいと思っており、来年は形が変わるが一層の協力をお願いする。

等の講話をいただきました。その後、質疑がなされ、懇親会に移っての懇談も、和やかな中にも真剣なお顔を拝見し、会長の業界を思う気持ちを強く感じさせられました。

◇スケジュール《○ロジ研行事予定》

- 10/18 (金)～19 (土) 温故創新セミナー(長崎)
- 10/29 (火) 16:00～ 正副本部長会議(東ト総合会館 6階中会議室)
- 11/18 (月) 東ト協チャリティーゴルフ
- 11/28 (木) 17:00～ 正副本部長会議・幹事会合同会議
- " 18:00～ ロジ研忘年会 (ANA インターコンチネンタルホテル東京 3階『ザ・ステーキハウス』)

ロジ研広報委員長というより、トラックフェスタ実行プロジェクトワーキングリーダーの中村です。

去る9月14日・15日、代々木公園(イベント広場・野外ステージ・ケヤキ通り)において開催されました「トラックフェスタ TOKYO 2019」に皆様の多大なるご支援、ご協力を賜りましたことに、この場をお借りし、ワーキンググループを代表致しまして厚く御礼申し上げます。

思い返せば、2014年開催の「事故防止大会」において、本部事故防止大会の在り方に関するシンポジウムを行い、外部発信型のイベント開催が決定したことから始まりました。

2015年は大田支部様が出展されている、大田区の「OTA ふれあいフェスタ」の会場において“プレ”として初めての試験開催を致しました。

2016年には東ト協初の「トラックフェスタ TOKYO 2016」を代々木公園で開催し、フェスタの歴史が幕開けしたのを昨日のことに覚えております。当時、開催にあたって想定外の支出見込みとなり、予算について一から見直さざるを得ない状況の中で、ワーキングメンバーとイベント会社担当者との間で会議のたびに激論となり、最後は、見積もりの一項目一項目を見直す作業を毎日行い金額調整をした辛い時期もありました。

2017年は「トラックこどもパーク」として有志での開催となり、翌年の「トラックフェスタ TOKYO 2018」は、協会本部の選挙並びに執行部の人事変更等があり、ワーキンググループとしての開催準備も足踏みする時期がありましたが、現状のトラックフェスタの基礎を確立し、そして今年の「トラックフェスタ TOKYO 2019」開催を迎えることが出来ました。

ご協賛頂きました皆様におかれましては、例年のご協賛企業・団体様以外に、早い段階から森本(副会長)実行プロジェクトリーダー、中村運行管理部長と共に、コートを着る寒い季節から酷暑の季節まで歩き回りお願いに上がってきました。訪問先によっては、ご紹介で何んでも難しい対応をされることも多々ありましたが、最終的には38企業・団体様から賛同頂き、昨年を上回る協賛金を頂戴致しました。その他に物品提供も4企業様から頂戴致しました。

今後、フェスタを毎年継続するのであれば、協賛は不可欠です。我々の力だけでは限界がありますので、皆様方のお力添えを是非ともお願いしたいと思います。

フェスタに来場された方へお渡しするノベルティの袋詰め作業では、東ト協職員、ワーキングメンバー総勢50名を超える人員が、約4時間の作業でおおよそ3,000個の用意が出来ました。東ト協会員、職員がフェスタの成功を祈りながらされている作業は本当に素晴らしく、まさに「東ト協のフェスタは手作り」そして、この「手作り」の裏側には、これから先の業界の発展を望む気持ちが強く感じられました。

浅井会長より「継続こそ力」というお言葉を頂き、このことを真摯に受け止め、次期開催に向けて頑張ってください。

